

平成29年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図るとともに、教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を深め、国際的視野の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る	① 授業の工夫改善度 各教科 80%以上 学習に対する動機付け度 80%以上 学習に対する意欲度 80%以上	① 工夫改善度 80%以上 6教科 (平均 80.0%) 動機付け度 86.2% 意欲度(興味・関心をもてる) 80%以上 2教科 (平均 74.2%)	B A C	B A A	(評定)	学習意欲を引き出すと、指導体制が一定化され、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。
② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る	③ 進路希望にあったコース（教科・科目）の満足度 80%以上	③ 生徒の満足度 91.2%	A	A	B	学習意欲を引き出すと、指導体制が一定化され、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。
③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	② 生徒の学習時間（1日あたり） 30分未満の生徒の割合 1%以下 3時間を超える生徒の割合 50%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間以上	② (4～12月) 1年 0% 2年 0% 1年 61.1% 2年 57.9% 1年 3.3時間 2年 3.2時間	A A A B	A A A B	B	学習意欲を引き出すと、指導体制が一定化され、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
	① 教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。 相互参観授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。	① シラバスを作成し、ホームページに掲載した。 公開授業2回で相互参観を実施した。	① 評価指標による達成度は、授業の工夫改善・学習に対する動機付けは、意欲度は達成できなかった。授業の工夫改善・学習に対する動機付けは、意欲度は達成できなかった。授業の工夫改善・学習に対する動機付けは、意欲度は達成できなかった。			学習意欲を引き出すと、指導体制が一定化され、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。
	② 第1学年で英語、数学、国語の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 好ましい学習態度を理解させる。 予習・復習、授業の受け方を指導する。特に予習の大切さと授業との効果的連動については、学期始めやテスト終了後など授業の中で折りに触れ教科担任から指導する。 家庭学習時間調査を毎日実施する。 週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 基礎学力養成講座、再テストを実施する。	② 英数国理社の学習ガイダンスを実施した(4/13,14)。 予習中心の学習スタイルを指導した。	② 予習への取り組み度は、目標を大きく上回った。また、生徒の学習時間においても、1・2年生ともに目標が達成できた。学習時間は30分未満の生徒は6割のおらず、各学年、約3時間以上であった。活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果を上げている。また、教科研究会についても各教科で、学期毎に実施している。			学習意欲を引き出すと、指導体制が一定化され、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。
	③ 学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。	③ 定期考査最終日に授業を実施した。 平成30年度教育課程を編成した。	③ 定期考査最終日に授業を実施した。 平成30年度教育課程を編成した。			学習意欲を引き出すと、指導体制が一定化され、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。また、指導意欲が向上し、学習意欲が向上する。
						学校関係者の意見
						具体例を挙げての予習指導を行う取組は、子どもにとってわかりやすい指導的である。中学生の学習から高校生の移行期まで、先生方の指導が、先生方のやる気も感じられる。全国的な教育の動向に注視し、意識の高さを高める工夫と改善の努力を継続して行ってほしい。

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成とともに、夢や目標を明確にさせる	① 総合学習「クエスト」の有用度	80%以上	① 生徒 71.7%	C	(評定)	「クエスト」の取り組みがSGHを核に高大連携を密にしつつ、「身につけていくべき力は何か」という観点から、活動計画を見直していきたい。選抜に備え、基礎学力の定着、思考力・判断力・表現力、育成に力加えて、主体性を発揮し、多様な態度を必要とする。校外の研修、資格・検定の取得に積極的に参加したい。
	② 城東ゼミ（補習）の有用度	70%以上	② 生徒 73.0%	B		
② 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる	③ 進路情報の学校の提供度	80%以上	③ 生徒 88.7%	A	B	学校関係者の意見
	①-1 大学見学・企業見学の回数	各1回以上	保護者 84.7%	B		
③ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	①-2 大学等授業体験の実施回数	1回以上	①-1 大学2回、企業研修1回	B	B	城東ゼミやクエストの取組によって、生徒たちの進路に関する意識は向上している。SGHの重要性を認め、また、発表会や自己を高めている一方、クエスタの有用度の評価が低く、進路や学習意識の向上には役割立っておらず、オープンキャンパスへの生徒の希望参加人数が減少し、課題研究コンクールへの応募も少ないのが現状である。各学年での模試分析会を3年だけなく、1・2年でも各3回実施し、事前には資料を増やして、模試分析会を実施したことで、より教員間やクラス間で共有することができた。
	①-3 職業ガイダンスの回数	1回以上	①-2 1回（10/16～18）実施	B		
	①-4 省庁・国際機関での研修回数	各1回以上	①-3 1回（1/18）実施	B		
	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数	100講座以上	①-4 文科省1回 国際機関等2回	B		
	②-2 国公立大学合格者数	200名以上	②-1 城東ゼミ講座数109講座	B		
	②-3 難関大学（東京・京都・大阪大学、医学・歯学・薬学部など）合格者数	40名以上	②-2 未	B		
	②-4 校外模試偏差値70以上	30名以上	②-3 未			
	②-5 S G H ・ 課 題 研 究 発 表 会 の 回 数	2回	②-4 70以上 1年39名 2年34名 60以上 1年135名 2年122名 (3教科(11/3実施)進研模試)	B		
	②-6 課題研究コンクール入賞数	2班以上	②-5 2回実施	C		
	②-7 学力テスト講評の配布回数	11回以上	②-6 入賞なし	B		
	③ 進路説明会の開催回数	3回(各学年1回以上)	②-7 学力テスト講評11回配布	B		
			③ 進路説明会回数 4回実施	B		
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	
	①-1 東京・京都大学見学を実施する。 ・企業研修を実施する。 ・オープンキャンパスへの参加を推奨する。		①-1 京大37名(8/9～10)、東大7名(8/2～4)、企業研修17名全員(9/22)が参加した。		企業研修、大学授業体験及び国際機関等での研修や発表会は、計画通りに実施でき、生徒の評価も高い様子である。しかし、「クエスト」有用度の評価が低く、進路や学習意識の向上には役割立っておらず、オープンキャンパスへの生徒の希望参加人数が減少し、課題研究コンクールへの応募も少ないのが現状である。各学年での模試分析会を3年だけなく、1・2年でも各3回実施し、事前には資料を増やして、模試分析会を実施したことで、より教員間やクラス間で共有することができた。	
	①-2 第2学年での大学等体験授業を実施する。		①-2 3日間で24講座に137名が受講した。			
	①-3 第1学年での職業ガイダンスを実施する。		①-3 講師21名が来校した。			
	①-4 外務省・文科省等での研修を実施する。		①-4 FAO、JICA関西、WHO神戸センター等でのべ76名が研修に参加した。			
	②-1 補習を実施する。毎週38講座(3年)38講座(2年)24講座(1年)		②-1 毎週43講座(3年)、42講座(2年)、24講座(1年)を開講した。			
	②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施する。		②-2 3年4回実施した。			
	②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施する。		②-3 1年2回、2年3回、3年2回実施した。			
	②-4 模試分析会を第1、2学年で3回実施する。		②-4 1、2年共に3回実施した。			
	②-5 第2学年で課題研究発表会、第3学年でSGH発表会を実施する。		②-5 S G H 発表会(7/22)、課題研究発表会(2/14)を実施した。			
	②-6 課題研究コンクールへの応募を督励する。		②-6 大会に応募した。			
	②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。		②-7 学力テスト講評を11回配布した。			
	③ 進路説明会を実施する。(各学年1回) ・最難関大学進学希望者説明会を実施する。 ・難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会を実施する。		③ 1年1回、2年1回、3年2回実施した。 ・3年1回実施した ・1年1回2年2回実施した。			

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策		
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価			
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する ② 部活動を充実させる ③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	①	生徒会活動が活発である割合 生徒 85%以上 教員 90%以上 保護者 85%以上	① 生徒 85.8% 教員 93.4% 保護者 82.0%	B A C	(評定) B A B	継続して「文武両道」に取り組むことにより、生徒の生活態度が向上し、各部活動の活動量が増え、生徒の生活態度が向上している。また、ボランティア活動の機会が増え、生徒の社会貢献意識が高まっている。		
	②	部活動の入部率 90%以上	② 89.1%	B				
	③-1	募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む割合 75%以上	③-1 生徒 73.8% 保護者 73.2%	C C				
	③-2	清掃ボランティア満足度 95%以上	③-2 アンケートでの肯定的意見 生徒(1年) 97.1% 生徒(2年) 99.0%	A				
	③	1・2年生全員による清掃ボランティア活動の実施回数 1回以上	③ 清掃ボランティア活動を2年(5/19)、1年(10/13)に実施	B		学校関係者の意見		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)					
	①	・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝のあいさつ運動を実施する。 ・委員会活動を充実させる。	①	生徒会役員(9名)と生徒会執行部員(67名)が種々の学校行事の運営に参加した。 ・生徒会、運動部で朝のあいさつ運動を実施した。 ・学校祭では生徒会、各種委員会で行った。 ②	生徒会役員、生徒会執行部員(計76名)が主体的に実施することができた。 ・部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、例年同様種々の大会において、数多くの部が上位の成績を収めた。入部率については学校評価アンケート目新設し算出、89.1%と目標値の90%に迫る結果であった。部活動の向上感についても、さらなる活動としていきたい。 ボランティア活動では、生徒会や部活動が積極的に参加する機会が増え、清掃ボランティア活動にも積極的に参加した(予定)。	生徒会役員、生徒会執行部員(計76名)が主体的に実施することができた。 ・部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、例年同様種々の大会において、数多くの部が上位の成績を収めた。入部率については学校評価アンケート目新設し算出、89.1%と目標値の90%に迫る結果であった。部活動の向上感についても、さらなる活動としていきたい。 ボランティア活動では、生徒会や部活動が積極的に参加する機会が増え、清掃ボランティア活動にも積極的に参加した(予定)。	生徒会役員、生徒会執行部員(計76名)が主体的に実施することができた。 ・部活動でも、文化部・運動部ともに活発に活動し、例年同様種々の大会において、数多くの部が上位の成績を収めた。入部率については学校評価アンケート目新設し算出、89.1%と目標値の90%に迫る結果であった。部活動の向上感についても、さらなる活動としていきたい。 ボランティア活動では、生徒会や部活動が積極的に参加する機会が増え、清掃ボランティア活動にも積極的に参加した(予定)。	学習活動だけでなく、「文武両道」に取り組むことにより、生徒の生活態度が向上し、各部活動の活動量が増え、生徒の生活態度が向上している。また、ボランティア活動の機会が増え、生徒の社会貢献意識が高まっている。
	②	・部活動と学習面との両立を図る。 ・下校時間を遵守する。 ・部活動を精選する。	②	平日午後8時完全下校を実施した。 ・顧問の適正数配置をした。				
	③-1	・ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域(施設や諸学校など)に根づいたボランティア活動を実践する。(生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・外語部・運動部など)	③-1	JRCと協力して海外助け合い運動、歳末助け合い運動に参加した。 ・邦楽部、書道部がデイケアセンター訪問を実施した。 ・徳島マラソンボランティアに参加した(予定)。				
	③-2	・生徒会や運動部による学校周辺の清掃活動を実施する。 ・1・2年生全員による市内道路等の清掃ボランティア活動を年1回以上実施する。 ・ボランティア活動について、日時や内容などをHPを使って情報提供する。	③-2	運動部による朝の学校周辺清掃活動を継続して実施した。 ・清掃ボランティア活動を2回実施した。 ・清掃ボランティア活動の様子をHPに掲載した。				

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方針
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 65%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数 5.5冊以上 ②-1 読書会，読書週間の実施回数 読書会 2回以上 読書週間 2回以上 ②-2 ツールとして，図書館の資料を活用するスキルを身につけている割合 75%以上	①-1 生徒 69.5% 教職員 96.7% 保護者 77.6% ①-2 3.7冊（12月末現在） ②-1 それぞれ年2回ずつ実施 ②-2 生徒 91.6% 保護者 78.0%	B A B B B A B	(評定) B	今年も、国際的視野を 広げ、読書の楽しさを 伝えること、読書を通じた 学びの機会を増やすこと を目指す。	
	①-1 ・読書週間を1・2学期にそれぞれ1回実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上実施する。 ②-1 ・図書委員を中心に，読書会・読書週間を利用して読書啓発を行う。 ・生活記録の「読書」欄を利用し，読書への関心・意欲を高める。 ②-2 ・SGHをサポートし，国際的視野を広げる一助となるように関連書籍を「ライブラリーニュース」や展示などで，紹介していく。 ・生徒により興味・関心を持たせるような展示にするよう工夫する。	①-1 ・読書週間を2回実施した。(4/24～4/28, 10/16～10/20) ・学校ホームページの「図書館だより」の中に図書館情報を掲載した。 ・「ライブラリーニュース」を8月を除いて毎月発行した。 ①-2 読書会は，「ビブリオバトル」(5/29)と佐々木義登先生(四国大学)による「小説の書き方入門」(10/20)を開催した。 ②-2 「国語と英語の教科書に取り上げられた本・さらに理解を深める本」「映像化された本・される本」の展示を今年で実施し，「夏休みに読もう♪先生の推薦本」を夏休み前に実施した。 また，国際子ども図書館のセット貸し出しを利用して「絵本展示」を1・2学期にそれぞれ1回ずつ実施した。ノーベル賞を受賞したカズオイシグロ氏の作品展示も実施した。	(所見) アンケートの結果は，昨年に比べ，生徒が3.9%増加したが，貸出冊数は，12月末現在で，昨年度と比較し187冊減少しており，生徒一人あたりの図書貸し出し数は昨年の同時期に比べ，0.87冊下回っている。 生徒の読書への興味を引き出すように，今年度もSGHの調べものや，論文の活用など，読書への関心を高めるための取り組みを推進していきたい。			
学校関係者の意見						
毎月発行のライブラリーニュースは，大勢の読者から好評を博している。読書への関心を高めるため，読書会や読書週間などの取り組みを推進していきたい。						

9 グローバル人材の育成

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	グローバル人材の育成についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価
<p>①異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る</p> <p>②国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る</p>	<p>①② 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合 生徒 90%以上 教員 90%以上 保護者 90%以上</p> <hr/> <p>①-1 海外研修の活動記録展示回数 2回以上 ①-2 1, 2年生の各クラスで異文化理解学習を実施回数 のべ20回以上</p> <p>②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数 20名以上 ②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数 15名以上 ②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加人数 120名以上 ②-4 海外研修・海外留学に参加した(したい)生徒の割合 60%以上 ②-5 社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数 200名以上 ②-6 S G H発表会・課題研究発表会で英語で発表するグループの数 5組以上</p>	<p>①②</p> <p>生徒 89.0% 教員 100.0% 保護者 86.7%</p> <hr/> <p>①-1 4回展示 ①-2 47時間実施</p> <p>②-1 参加者13名 ②-2 入賞3名 ②-3 参加者111名 ②-4 生徒 45.4% ②-5 197名 ②-6 8組が発表</p>	<p>B A C</p> <hr/> <p>A A C C B C B A</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>来年度は、S G H最終年度でも姉妹校交流の充実を図りたい。海外研修に積極的に取り組むことに加え、海外研修生の活動による国際交流の機会を増やしたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①-1 文化祭などでインドネシア研修・姉妹校交流の展示をする。 ①-2 英語の授業を中心にALTや海外留学生との授業を通じて、異文化理解の授業を実施する。 ②-1・2 参加を奨励するとともに、参加生徒にきめ細かな指導をする。 ②-3 ・県や大学・国際交流団体が主催する行事への参加を奨励する。 ・地元大学や国際交流協会等と連携して外国人と交流する機会を増やす。 ②-4 海外研修や海外留学に関する情報を提供し、参加を推奨する。 ②-5 県などが主催する活動への参加を奨励する。 ②-6 各種発表会において英語で発信する機会を増やす。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 S G H発表会(4月,7月), 文化祭(9月), 徳島教育週間(11月)に展示した。 ①-2 1年21時間, 2年26時間実施した。 ②-1 英語弁論大会2名, 英作文コンテスト1名, 国際教育振興弁論大会8名, S G H甲子園2名が参加した。 ②-2 英語弁論大会で2名, 英作文コンテストで1名が入賞した。 ②-3 WHO訪問34名, J I C A訪問34名, F A O訪問7名・日本ユネスコ国内委員会8名, 日本語教室でのボランティア9名, 徳島サマースクエア3名, ジュニア観光ガイド3名, 鳴門市姉妹都市親善使節団1名, 英語劇鑑賞と交流会2名, いくつかは留学! The One Day Course 8名, グローバル語り部の講演会2名が参加した。 ②-4,5 各種説明会8回実施した。 ②-6 S G H発表会で6組, 課題研究発表会で2組が英語で発表した。</p>	<p>(所見)</p> <p>今年度は、姉妹校交流がなかったり、タイ交流ミナミが合わなかったせい、例年より少しパーセントが下がっている。しかしながら、S G H行事は4年目となり、関連する行事はさらに充実していった。7月のS G H発表会は、課題研究の代表班が英語でプレゼンテーションをしたが、どの班も堂々とした態度で発表し、聴衆を魅了した。また、インドネシアのステラ・マリスの現地小学生と交流した。S N Sやテレビ会議を通じてステラ・マリス生と話し合いを重ねることができた。S G Hの成果がさまざまな形で現れているのを感じる。</p>	<p>(所見)</p> <p>今年度は、姉妹校交流がなかったり、タイ交流ミナミが合わなかったせい、例年より少しパーセントが下がっている。しかしながら、S G H行事は4年目となり、関連する行事はさらに充実していった。7月のS G H発表会は、課題研究の代表班が英語でプレゼンテーションをしたが、どの班も堂々とした態度で発表し、聴衆を魅了した。また、インドネシアのステラ・マリスの現地小学生と交流した。S N Sやテレビ会議を通じてステラ・マリス生と話し合いを重ねることができた。S G Hの成果がさまざまな形で現れているのを感じる。</p>	<p>(所見)</p> <p>今年度は、姉妹校交流がなかったり、タイ交流ミナミが合わなかったせい、例年より少しパーセントが下がっている。しかしながら、S G H行事は4年目となり、関連する行事はさらに充実していった。7月のS G H発表会は、課題研究の代表班が英語でプレゼンテーションをしたが、どの班も堂々とした態度で発表し、聴衆を魅了した。また、インドネシアのステラ・マリスの現地小学生と交流した。S N Sやテレビ会議を通じてステラ・マリス生と話し合いを重ねることができた。S G Hの成果がさまざまな形で現れているのを感じる。</p>

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	教職員の職場についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る	①	教職員の職務の満足度 90%以上	① 教職員 91.8%	B	(評定)	<p>危ケは当教昨して、に、さあ</p> <p>「育成・評価システム」が全教職員が向</p> <p>これに基づいて自己の</p> <p>上の学校組織のミッ</p> <p>ンAサイクルの機能せ</p> <p>れられるようにしていく必要</p> <p>が新しい大入試制度や</p> <p>アクティブラーニングの</p> <p>研修を積極的に行い、生</p> <p>徒自ら姿勢を育てられるよ</p> <p>うに授業改善を進める。</p>
	②-1	常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100%	②-1 教職員 96.7%	C		
②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る	②-2	教育活動に危機管理意識を持って対応できている割合 95%以上	②-2 教職員 93.4%	C	B	<p>「育成・評価システム」が全教職員が向</p> <p>これに基づいて自己の</p> <p>上の学校組織のミッ</p> <p>ンAサイクルの機能せ</p> <p>れられるようにしていく必要</p> <p>が新しい大入試制度や</p> <p>アクティブラーニングの</p> <p>研修を積極的に行い、生</p> <p>徒自ら姿勢を育てられるよ</p> <p>うに授業改善を進める。</p>
③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	②-1	情報セキュリティポリシーについての研修会の実施回数 2回	②-1 e-ラーニングを2回(7月, 12月)実施	B		
	②-2	教職員全体でのコンプライアンス研修会の実施回数 3回	②-2 2回実施(4月, 7月)	B		
	③-1	校内での研究授業・授業研究会参加人数 50名以上	③-1 約75名	A	B	<p>「育成・評価システム」が全教職員が向</p> <p>これに基づいて自己の</p> <p>上の学校組織のミッ</p> <p>ンAサイクルの機能せ</p> <p>れられるようにしていく必要</p> <p>が新しい大入試制度や</p> <p>アクティブラーニングの</p> <p>研修を積極的に行い、生</p> <p>徒自ら姿勢を育てられるよ</p> <p>うに授業改善を進める。</p>
	③-2	校内での相互参観授業週間の実施回数 2回以上	③-2 相互参観授業週間を2回実施(5月, 11月)し、参観シートを2枚提出	B		
	③-3	校外での授業力向上研修参加人数 5名以上	③-3 7名が参加	B	B	<p>「育成・評価システム」が全教職員が向</p> <p>これに基づいて自己の</p> <p>上の学校組織のミッ</p> <p>ンAサイクルの機能せ</p> <p>れられるようにしていく必要</p> <p>が新しい大入試制度や</p> <p>アクティブラーニングの</p> <p>研修を積極的に行い、生</p> <p>徒自ら姿勢を育てられるよ</p> <p>うに授業改善を進める。</p>
	③-4	「育成・評価システム」を全教員対象に実施し、PDCAサイクルの構築	③-4 「育成・評価システム」を全教員対象に実施	B		
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	<p>学校関係者の意見</p> <p>教師の質の向上が学校</p> <p>全体のレベル向上につな</p> <p>がらぬので、教師間の横</p> <p>新入試制度などに対応で</p> <p>コンプライアンス研修教</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p> <p>が感謝している。実践</p> <p>が働き方改革の実中</p> <p>質の高い教育の提供を</p> <p>期待している。</p>
	①-1	校内組織の活性化を図るため、学年主任等を中心とした月例主任連絡会をもつ。	①-1 主任等連絡会を実施し共通理解しておくべきことや、課題への対応について協議している。	①-1 主任等連絡会を実施し共通理解しておくべきことや、課題への対応について協議している。	<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>	
	①-2	校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。	①-2 共有フォルダーを階層レベルごとに設定し、整理・活用しやすくしている。	①-2 共有フォルダーを階層レベルごとに設定し、整理・活用しやすくしている。		<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>
	②-1	研修会を通して、「情報セキュリティポリシー」を徹底し、確実に実行できるようにする。	②-1 個人所有のUSBの使用を禁止することでデジタル情報の漏洩を防いでいる。	②-1 個人所有のUSBの使用を禁止することでデジタル情報の漏洩を防いでいる。	<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>	
	②-2	外部講師による研修会を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。	②-2 外部講師の研修会のかわりに、職員朝会の利用等普段からの意識向上を図った。	②-2 外部講師の研修会のかわりに、職員朝会の利用等普段からの意識向上を図った。		<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>
	③-1	計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。	③-1 県教委計画訪問、初任者研修、授業力向上研修、中堅教員研修において研究授業を実施した。	③-1 県教委計画訪問、初任者研修、授業力向上研修、中堅教員研修において研究授業を実施した。	<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>	
	③-2	相互参観授業週間を実施し、生徒の状況把握や授業改善に役立てる。	③-2 授業公開週間(10/30~11/2)を実施し、授業参観シートを1人2枚提出し授業改善に活用した。	③-2 授業公開週間(10/30~11/2)を実施し、授業参観シートを1人2枚提出し授業改善に活用した。		<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>
	③-3	予備校等の授業力向上研修に参加する。	③-3 7名が参加した。	③-3 7名が参加した。	<p>授業公開週間に合わせて</p> <p>「相互参観授業週間」を設</p> <p>定し、他の教員や一般の方</p> <p>に参観してもらったり、感</p> <p>想やアドバイスを書いた</p> <p>「参観シート」を交換した</p> <p>りすることで、自分の授業</p> <p>を客観視することができ</p> <p>た。これを、授業改善に</p> <p>なげたい。</p> <p>コンプライアンス研修</p> <p>は、非常勤講師も含めてが</p> <p>職員全員で取り組むこと</p> <p>でできた。情報セキュリテ</p> <p>ーについても、研修を</p> <p>も満足できる状況であ</p> <p>た。「育成・評価システム」</p> <p>を全教員対象に実施してい</p> <p>るが、PDCAサイクルを</p> <p>よる自己や組織の向上を</p> <p>さらに図っていききたい。</p>	
	③-4	全教員(非常勤講師を除く)が、「目標管理シート」を効果的に使用し、自らの課題や責務を客観的に捉え、明確化するとともに、次年度への改善に生かせるスキルを身につける。	③-4 「育成・評価システム」を実施し「目標管理シート」の利用で次年度への課題の設定につなげた。	③-4 「育成・評価システム」を実施し「目標管理シート」の利用で次年度への課題の設定につなげた。		